

永永柱

順德天皇

佐渡史蹟

永永

嘉京

黒木御所蹟

特254

184

料

始



特254
184



皇天德順

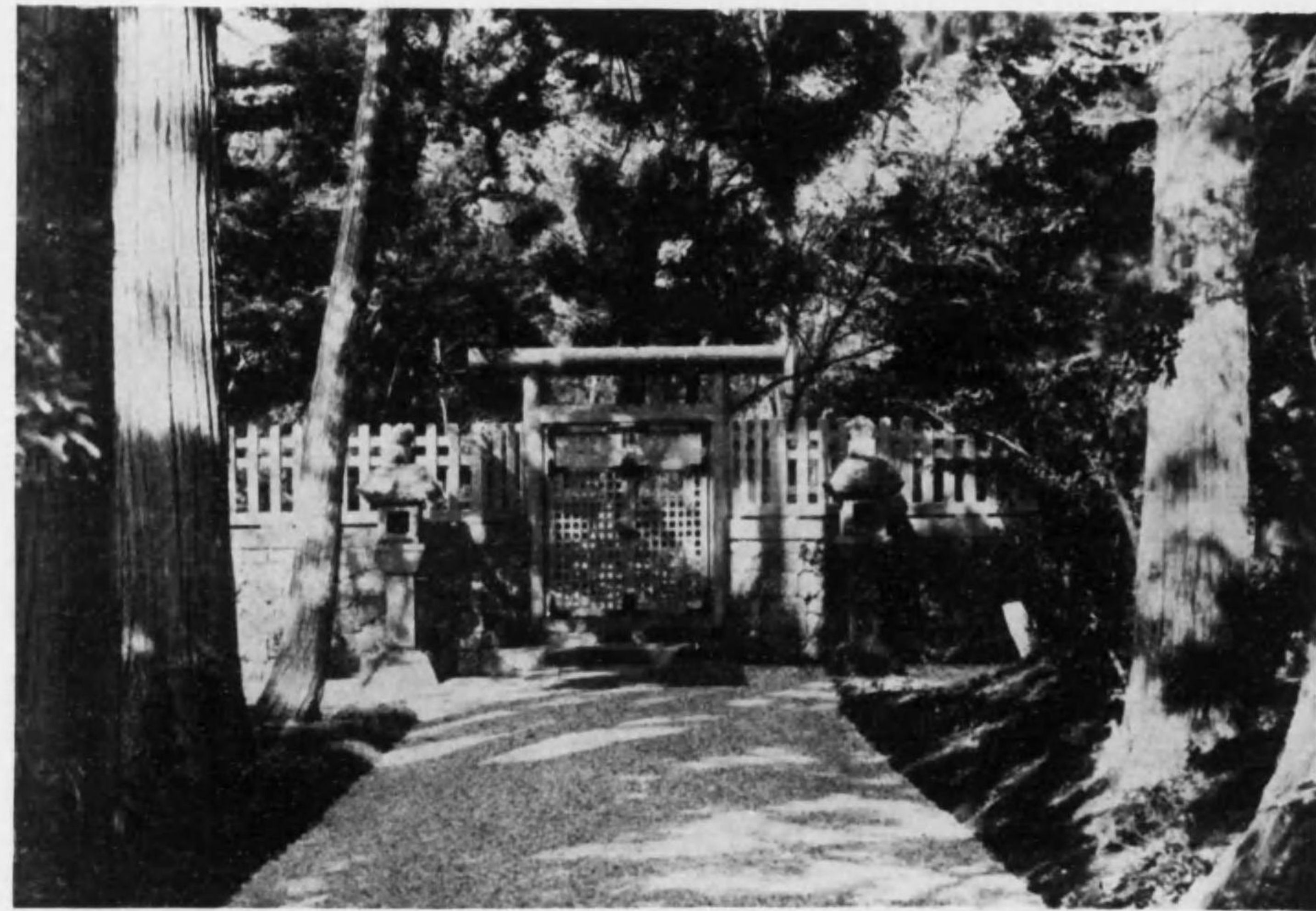
蹟史渡佐



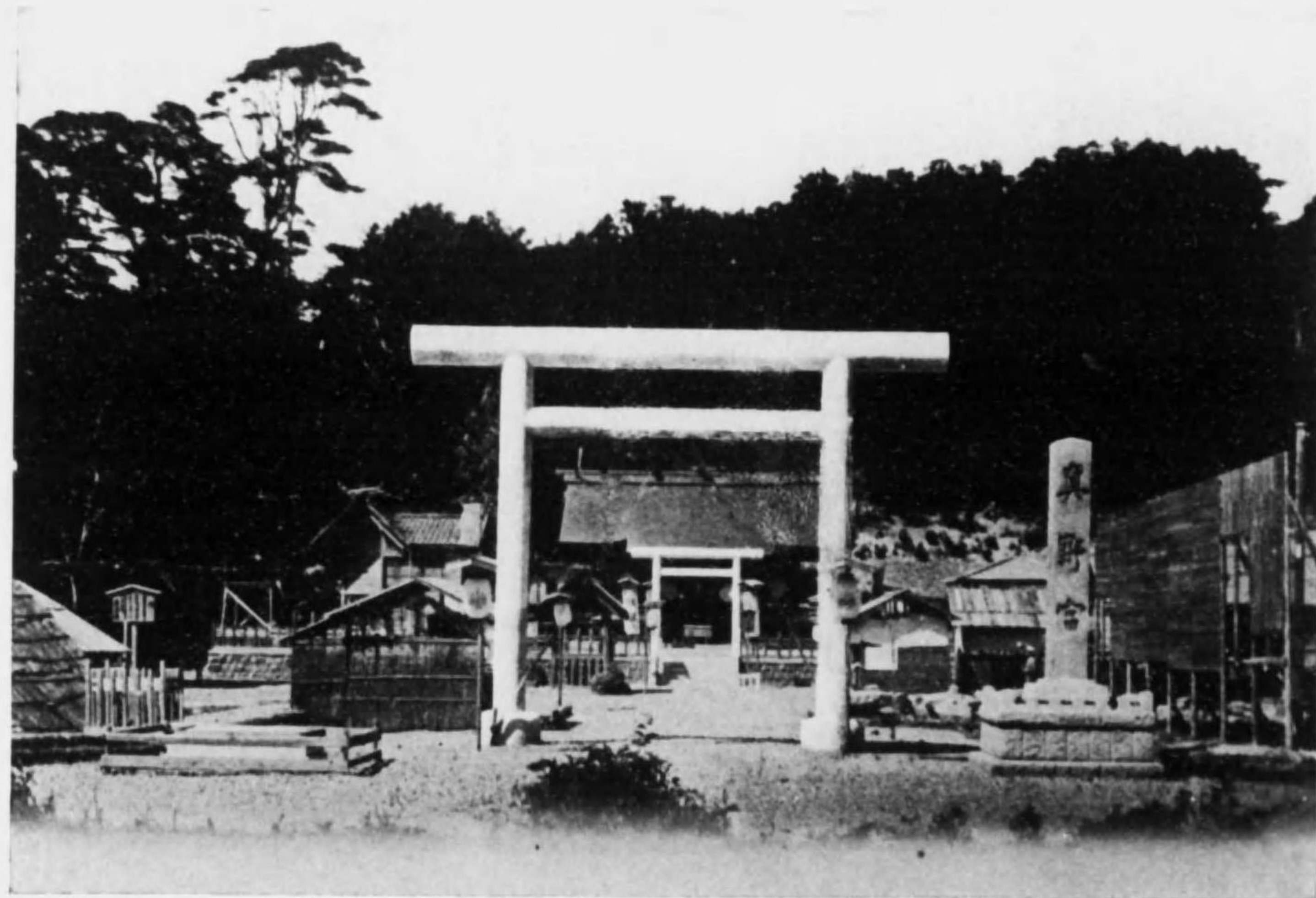
蹟 所 御 木 黒



眞野山陵



宮野真



佐渡の國柄と史蹟

佐渡は太古伊弉諾伊弉册尊が大八洲を創造あそばされた一
だと傳へられてその國柄は山からは金銀穀菜が多く出で海
からは魚介海藻が豊かに獲られ我邦の島國中にありては自
給自足の良き國と謳歌はるゝばかりでなく順德帝の御遷幸
日蓮上人の御配流日野朝臣の御遭難等の我日本國の興廢盛
衰の大きな關係あり明治維新以後は世界の戰機が一變し内
外戰役の埒外に晏然と日本海中の一孤島たりし佐渡は一朝
事ある時は陸に海に殊更空中戰に攻防上樞要の位置を占む
るのであります。

順德天皇の御還幸

抑も順德帝の御遷幸は源賴朝が幕府を鎌倉に設け天下の政
治を行ひ朝權下に移り源氏の勢ひ甚だ盛大なりしが賴朝薨
じ長子賴家立ちしも伊豆にて弑せられ次で實朝に及びしが
是も亦鶴ヶ岡にて命を落せしかば打續く不幸の爲め源氏の
正統は殆ど絶へました此時後鳥羽帝の御聖慮には源氏は甚
しく衰頽せしかば王政上に復るべきことを期したりしが鎌
倉の權勢益旺盛で執權北條義時は賴朝の妻政子と相謀り藤
原道家の子賴經を迎へて之を立つて屢朝命にそむき益專横
でありしかば後鳥羽帝は怒つて義時を討たんとしたのです
土御門帝は未だ其時期ではないと諫め止めしも後鳥羽帝聞
入れたまはず御賛成の順德帝をして位を太子に譲らしめて
討議に便せしめました即ち院宣を天下に下して大に戰備を
努め討幕軍を起しました即ち鎌倉幕府は之を聞き義時廣元の議

を用ゐて約二十萬の大軍を東海東山北陸の三方より攻め上らしめ戦鬪を開きしが官軍は長袖束帶の戦争不慣の公卿の編軍諸國より馳せ参りしは多くは浮浪無頼の烏合の衆いかでか百戰練磨鎌倉武士に及ぶべきさなから猛虎の狐羊を驅け散らすがごとくにて官軍悉く敗れ幕軍は大勝利を博しました之を承久の亂といひます後鳥羽帝急迫の余り罪を臣僚に歸せしめ近日の事朕が意に出づるにあらずと宣へり義時は亂暴にも泰時等をして後鳥羽帝を隱岐に順德帝を佐渡に土御門帝を土佐に及び三親王を方々に配流せしめ公卿朝臣及び官軍に味方せし臣民は遠島或は斬殺しました就中佐渡へ御遷幸の順德帝は諱は守成後鳥羽帝の第三子であります天資英敏ではがらか幼き時より學問を好み最も和歌を能くし親ら撰ぶ所の八雲鈔及び禁秘鈔があります後鳥羽帝の北條氏を討つや専ら謀議に参りました其佐渡に在るや北溟の僻陬陸海自然の物資に恵まれざるにあらずと道路未だ開けず交通鹽燒く海人薪採る樵夫のみにて所謂眼に一丁字のなきものゝ多ければ語るに人なく舎りは堀立小屋にはんの寒暑を凌ぐばかりのわび住居なりしならん嗚呼萬乗の大君にましまして尊嚴極りなき宮殿に百司の奉仕を受くるやんことなき貴顯でありながら或は鹽風荒ぶ濱邊にたらちねの音信を波濤にかこち或は三間四面の黒木造りを御所として風雨を凌ぎ或は松柏の枝ぶりを見れば皇居を想ひ或は杜鵑の啼く音を聞きては詩歌の雅びの會を偲ぶに堪えぬ意味を歌ひ千辛萬苦の二十余年のうき歲月轉感慨量りなきといはねばならね而して順德帝の御遺蹟にてありしところ佐渡の彼方此方に散在して神社或は佛閣となりて百世の下人々の敬虔の情を起さしめ崇拜の的となりました又梅津の苔梅眞

日蓮上人の配流

野の石抱の梅二見の黒椿海潮寺の御所櫻は御手植若くは御遺愛なせしものにて佐渡の名所舊蹟と天下の人々をして追慕景仰の念を惹き起さしむることになりました。

其後時頼時宗の時に至りて稀代の名僧で法華經の信者である日蓮上人出で、眞言亡國律國賊念佛無間禪天魔と喝破して他宗の眠りをさましたばかりでなく彼の元の忽必烈侵略主義を豫言して立正安國論を著して之を鎌倉幕府に提出して日毎に鎌倉小町の辻に於て宗教上僧侶の墮落あるひは北條氏の失政を攻撃獅子吼營に僧侶どもの怨恨人々の迫害を受けしばかりでなく北條幕府の憤怒に遭ひ身体には瓦礫を投げつけられ住居は焼打にあひ或は伊東の粗嶋の危難にあひ或は龍の口の修羅場を演せられ遂に遠く佐渡に送られました日蓮上人の佐渡に在るや衣食住欠乏は言ふまでもなく誰一人のお訪者もなく他宗の僧侶は冷嘲熱罵地頭本間に讒訴して迫害は日々に酷しく具さに辛酸を嘗めました然しながら日蓮上人の鐵血心は愈強く開目抄は塚原の三味堂で著はして觀心抄は一の澤なる清水ヶ岡に出にけり日蓮上人素より勤王の御志深ければ常に皇室の式微を御嗟きあそばされ鎌倉幕府の横暴を憤り特に佐渡に來ましては順德帝の慘風悲雨御跡を見聞きしては陪臣北條氏の惡逆を憤り順德帝御陵墓や御遺跡をお弔らひしことは御遺文やまた御日記に書きあらはれていと床しかるが故に順德帝と日蓮上人の御舊跡は佐渡の各方面に散在します。

日野資朝卿の御遭難

此等に續き佐渡の史籍で名高きは日野資朝卿の御遭難であります蓋し北條氏末期の高時の亂暴至極の惡政をみそなはし積もる怨を晴らさんご後醍醐帝北條氏征伐に参加して謀主となりて活動振りの雄々しかりしが時運未だ會せずして謀洩れしたため佐渡に流され本間山城のため弑されました三子阿新九年拾三佐渡に渡り本間の館に到りて生前一たび父に對面せんと乞へども許されず數日を経て山城卿を斬り茶毘に附して骨を阿新に與ふ阿新これを見て大に悲み密かに山城を討つて仇を報いんとした一夜山城の寢室を窺ひしも山城あらず大刀取りし本間三郎といへる武士燈下に熟睡し居たりしかば彼も亦父の仇なりと其刀を奪ひ彼を蹴つて驚き覺むるところを刺殺し外に走り出で竹叢の中に隠れ居たりしが暫くして番卒どもこの變事を知り炬を照らして遍く索ねければ阿新逃れ出でんとせしかど廣さ二丈許りの湮にて飛び越ゆることを得ず傍にありし巨竹に攀ち登りしに辛じて城外に出で夜に入つて歩行し途に修驗者に逢ひ其救けによつて港に到り將に發せんする商船に便乗し追手の兵來りし時は船已に岸を離れし後なれば幸に免るゝことを得て越前に着し遂に京都に歸ることを得た嗚呼我佐渡はかくの如き史蹟によつて天下に名高く年を逐ふて舊跡參拜者の數を増すと全時に風光明媚の名勝地にあこがれて團体的衆人の來島する者指僕するに遑あらず。

x
x
x

佐渡地圖



順德天皇御遺蹟及佐渡名勝

△明治記念堂（金澤村） 佐渡郡の招魂社である

△御井戸堂（同村中興） 日蓮上人曼陀羅に用ひし井水の有る處

黒木御所蹟（同村 泉） 承久三年七月今より七百年前
順德天皇御年二十四 佐渡へ御遷幸の砌 當時供御
料地であつた 此和泉の里に 假宮を造らせ給ひて
御臨幸あらせられ 二十二年の春秋を送り過させ給ひ
し 甚ど畏き御行在所の御舊蹟である
（黒木と言ふからには 鉦鉦もあたらず 皮つきの丸
太造りの 粗殿におはせし事と拜察し奉る）
天皇は仁治三年九月十二日 御年四十六で 崩御遊
ばされた

○御腰掛石や 龍燈松の古蹟は 何れも御所蹟の附近
にある

御製

百敷や ふるき軒端の しのふにも
なほあまりある 昔なりけり
啼けばきく 聞けが都の 戀しきに
此里すぎよ 山ほとゝぎす

本光寺の観音（同 所） 順德天皇の御守本尊で 聖徳太
子の御作である 天皇黒木御所の四方に安置給ひし
四個の靈像の一牀で 御丈三尺三寸三分の立像正觀世
音菩薩で 國寶である

△御松山寶相寺(二宮村) 日蓮上人一ノ谷配居の間
旭日を拜せし處

△一ノ谷妙照寺(同村) 文永九年四月 日蓮上人
塚原より此地に移され 全十一年三月赦免歸倉まで謫
居の地

□郷社二宮社(同村二宮) 順德天皇佐渡での第二皇女忠
子姫宮を祀る 御墓所も同所にある

御歌

春の日の 長木の里は となりより

となりにかけて 梅が香ぞする

△佐渡鑛山(相川町) 慶長六年の發見 明治二十九年
三菱の經營に移つた 金年額八十萬圓 慶長元和の頃
は全盛期であつた

△尖閣灣(金泉村) 文部省名勝指定地でありて 豪
壯雄大の景である

□龍吟寺の觀音(二見村二見) 順德天皇御信念佛で國寶
である 昔は双股岩に安置されてあつたものである

○八房の梅(同村) 天皇御遺愛の一で 鴛鴦梅又
は鶯宿梅ともいふて居る

○月見すの池の古跡も同村にある

○御腰掛の松(八幡村) 當時行宮がありて 天皇常
に此松に御腰をおかけ遊ばされたと傳へて居る

□縣社眞野宮(眞野村) 正殿には 順德天皇を祭り奉り
左方に菅原道實公 右方に日野資朝卿を合祀されてあ
る

□眞野山陵(同村) 公稱眞野山御火葬塚と申し 順德天
皇崩御後正しく火化せる御骨を埋め奉りし處である
明治二十二年御陵は山城國大原に定められました
現在やはり御陵と同一の御取扱ひになつて居る

○石抱梅(同村) 天皇の御手植だと傳へて居る

○戀ヶ浦(同村) 天皇御遷幸の砌御着船の御遺蹟
である

御製

いざさらば 磯うつ波に ことゝはん

沖の方には なにごとがある

○堂所 眞野山陵より約一里半程離れた深山にある
こゝも行宮の御遺蹟として傳へられて居る

○經塚山 御陵の東に峙つて居る 天皇崩御の後 池
の清範が御宸翰御經等を火きて山嶺に埋めしところ
有る

□國分寺(同村) 聖武天皇刺願寺で佐渡最古の巨刹
で有る 本尊藥師如來は國寶で 順德天皇御遷幸の
初め 本寺を以て假宮と 遊ばされた處である

△阿佛坊妙宣寺 遠藤爲盛は北面の武士で 順德天皇
に奉仕しが 天皇崩御後入道して陵下に心喪する
事三十年 日蓮上人配流に際し上人に歸依し 其妻千

日尼と俱に 上人が塚原の危難を救護した 後其宅を寺とした

△日野資朝卿の墓 は阿佛坊の門側にある

△阿新かくれ松 の古跡も同寺附近にある

□郷社一宮社(畑野村宮浦) 順徳天皇佐渡での第一皇女慶子姫宮を祀る

○辛崎の松 一宮の御墓の稱である

御歌

松あれば 佐渡が嶋なる 辛崎も

志かすがにこそ 見まくほしけれ

□郷社三宮社(同村三宮) 順徳天皇第三皇子千歳の宮を祀る 御墓所も同附近にある

○末社 には 天皇供奉の人々 藤原康光 甲斐範經 左衛門佐の局等を祀る

△塚原の根本寺(新穂村大野) 日蓮上人 文永八年九

月十四日流謫されて鎌倉を立ち 同年十月二十八日佐

渡松ヶ崎に着き 十一月一日より翌年四月六日迄 三

昧堂に放置されたのである

△加茂湖 東西十八丁 南北一里十八丁 周圍五里十五丁 日本百景ノ一である

○苔梅(加茂村) 眞法院の庭内にある 天皇の御遺愛の一として數へられて居る

□法名院塚(西三川村笹川) 順徳天皇第三の皇子彦成親

王の御墓である 王は親鸞に歸依し 父皇の御跡を慕

ひ此國に下り 竹田の勝興寺に住持せられ弘化九年入

寂し給ふ

又塚の附近の阿彌陀堂の本尊は 池の清範の作と傳へられて居る

△小比叡山蓮華峯寺(小木町小比え) 眞言宗の古名刹で

大同年中僧空海の開基である 金堂及び大師堂は佐渡

唯一の特別保護建造物である

□御所櫻(小木) 海潮寺の庭前にある 順徳天皇

御手植で 内務省指定天然記念物である 毎年八十八

夜の候に満開で 一枝に八重咲きと一重咲きとがある

△小木海岸 文部省指定天然記念物及名勝地である 龜の子岩(枕状溶岩)は世界地質學上の 寶岩とも言はれる

△矢嶋經嶋 は風光明媚を以て名高く 經嶋は文永十一

年三月 日蓮上人の赦免狀を携へたる日朗上人の乗船

難破して漸く取りつき 讀經して一夜を明したる遺跡

の島である

△安隆寺(小木町) 日朗上人の一宿したる舊跡で 風光

絶佳の地である

△國幣小社渡津神社(羽茂村飯岡) 延喜式内 當國九社の第一で 佐渡の一の宮である社神は五十猛命を奉祀されてある

△本行寺（松ヶ崎） 文永八年十月二十八日 日蓮上人
 流誦の折着岸せし處で 附近にある櫟の大樹は 日蓮
 上人 一宿せし古跡として傳へられて居る

史蹟名勝天然記念物

木彫十二面觀世音 畑野長谷寺
 木彫正觀世音 泉本光寺
 金明正觀世音 二見龍吟寺
 木彫藥師如來 眞野國分寺
 木彫阿彌陀如來 河崎長安寺
 銅鐘（朝鮮） 河崎長安寺
 銅鐘（和） 新穂神宮寺
 國分寺跡 眞野村
 佐渡奉行所跡 相川町
 御所櫻 小木町
 蓮華峯寺金堂 小木町
 蓮華峯寺奥ノ院 小木町
 佐渡小木海岸 小木町

佐渡諸統計

佐渡 五十三里
 周圍 五十六方里
 面積 五ヶ町二十ヶ村
 戸數 二萬一千餘
 人口 十一萬餘
 縣道 十二線 八十里
 自動車 百三十臺
 田畑 一萬四千五百町步
 竹林 一千町步
 米 十八萬八千九百石
 味噌 三百萬貫
 木炭 三百八十五萬貫
 工産 三百二十九萬圓
 水産 二百四十萬圓
 林産 百二十萬圓
 鑛産 百九萬圓

夷 驛 卜 お け さ 丸



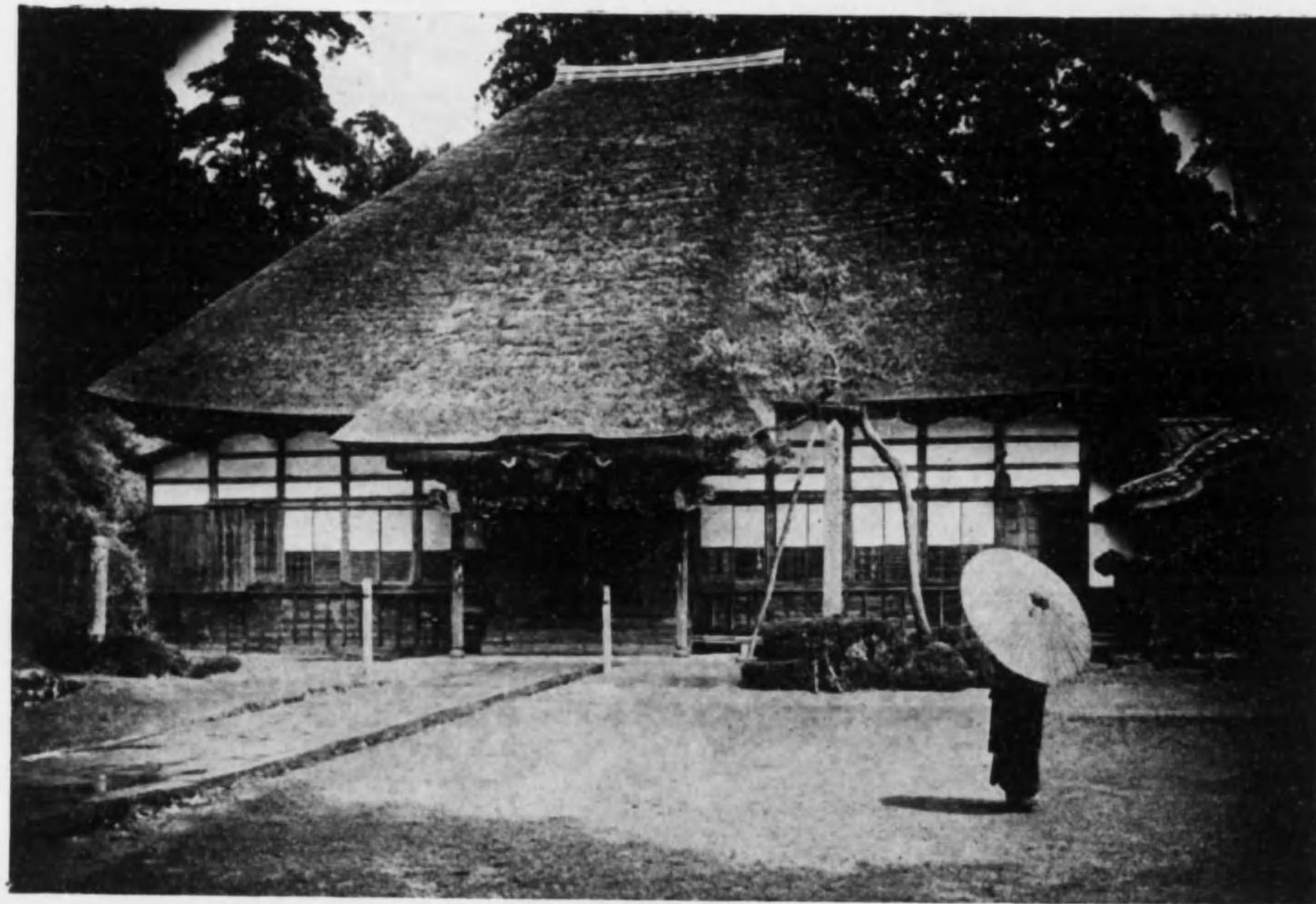
音 世 觀 ノ 泉



御松山實相寺



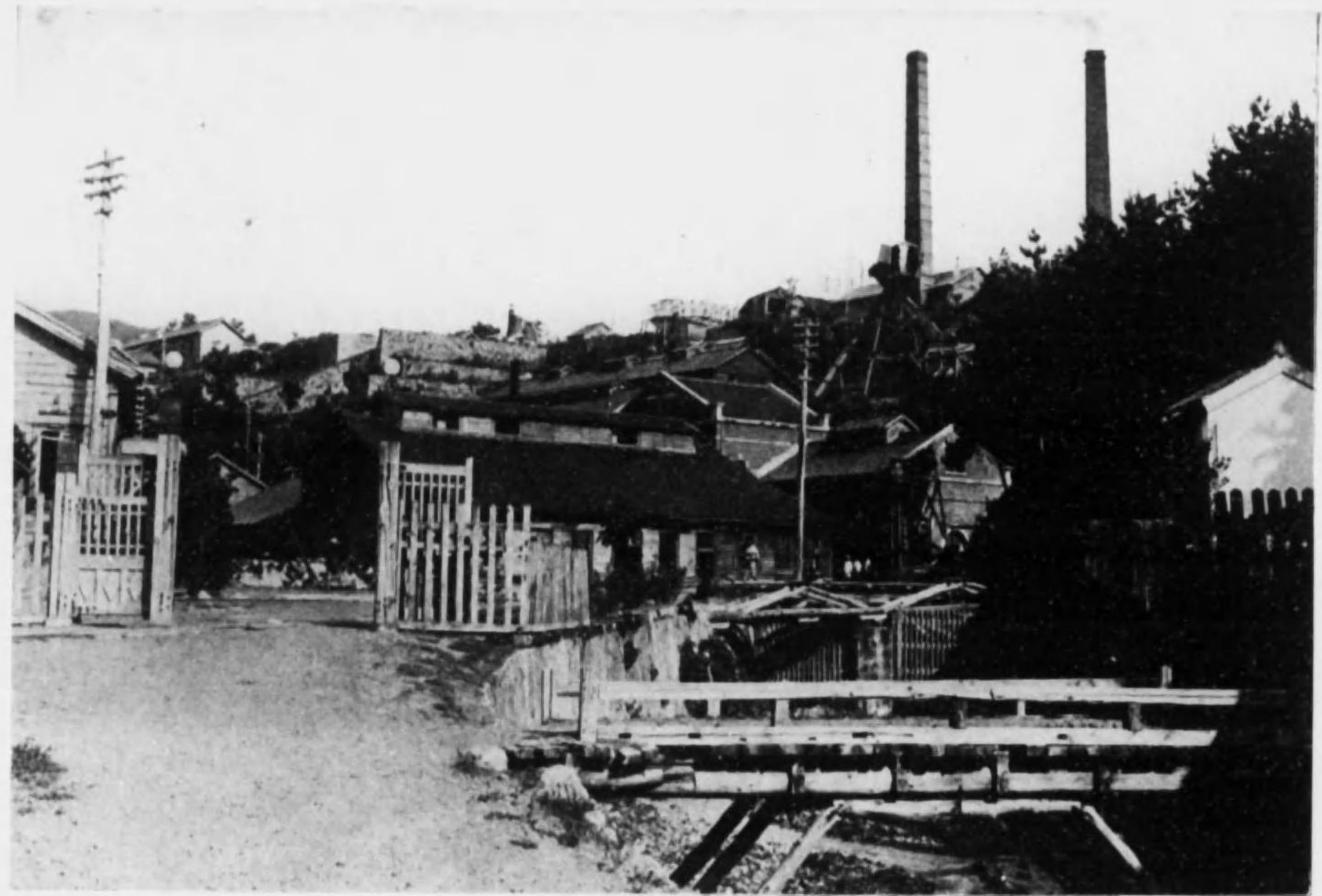
市ノ谷妙照寺



山 北 金



山 鏡 渡 佐



尖 閣 灣



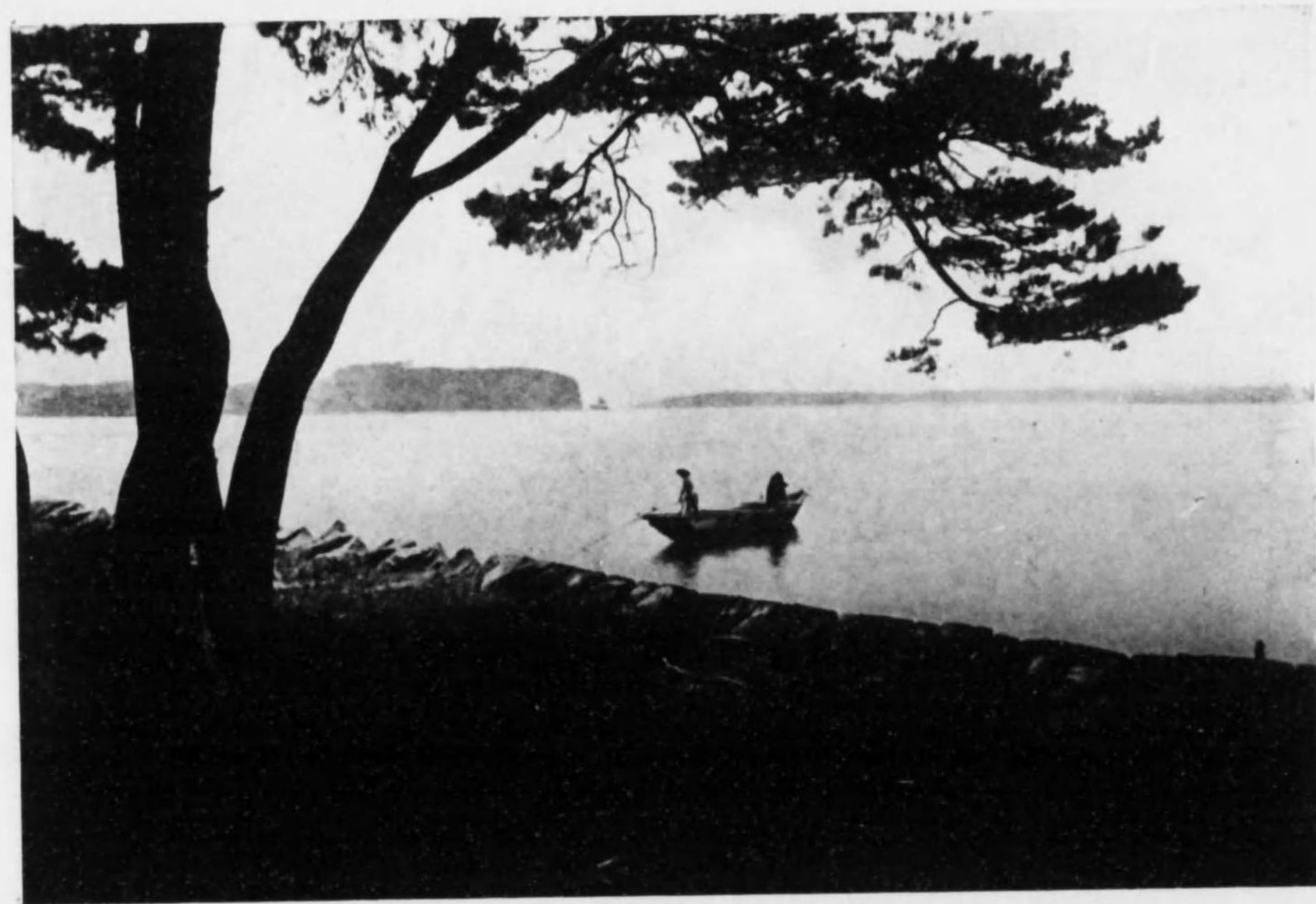
阿 佛 坊 妙 宣 寺



塚原山根本寺



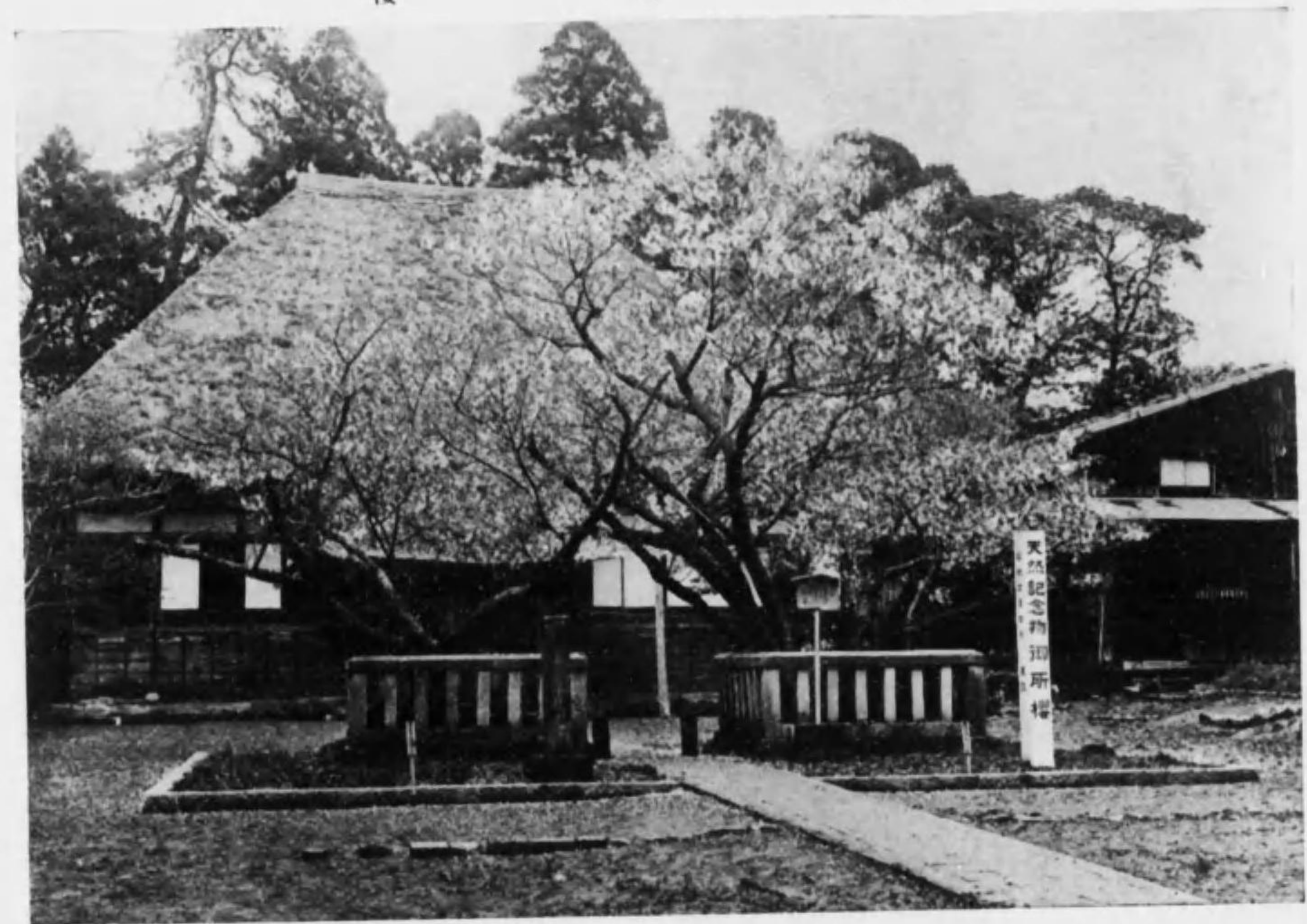
加 茂 湖



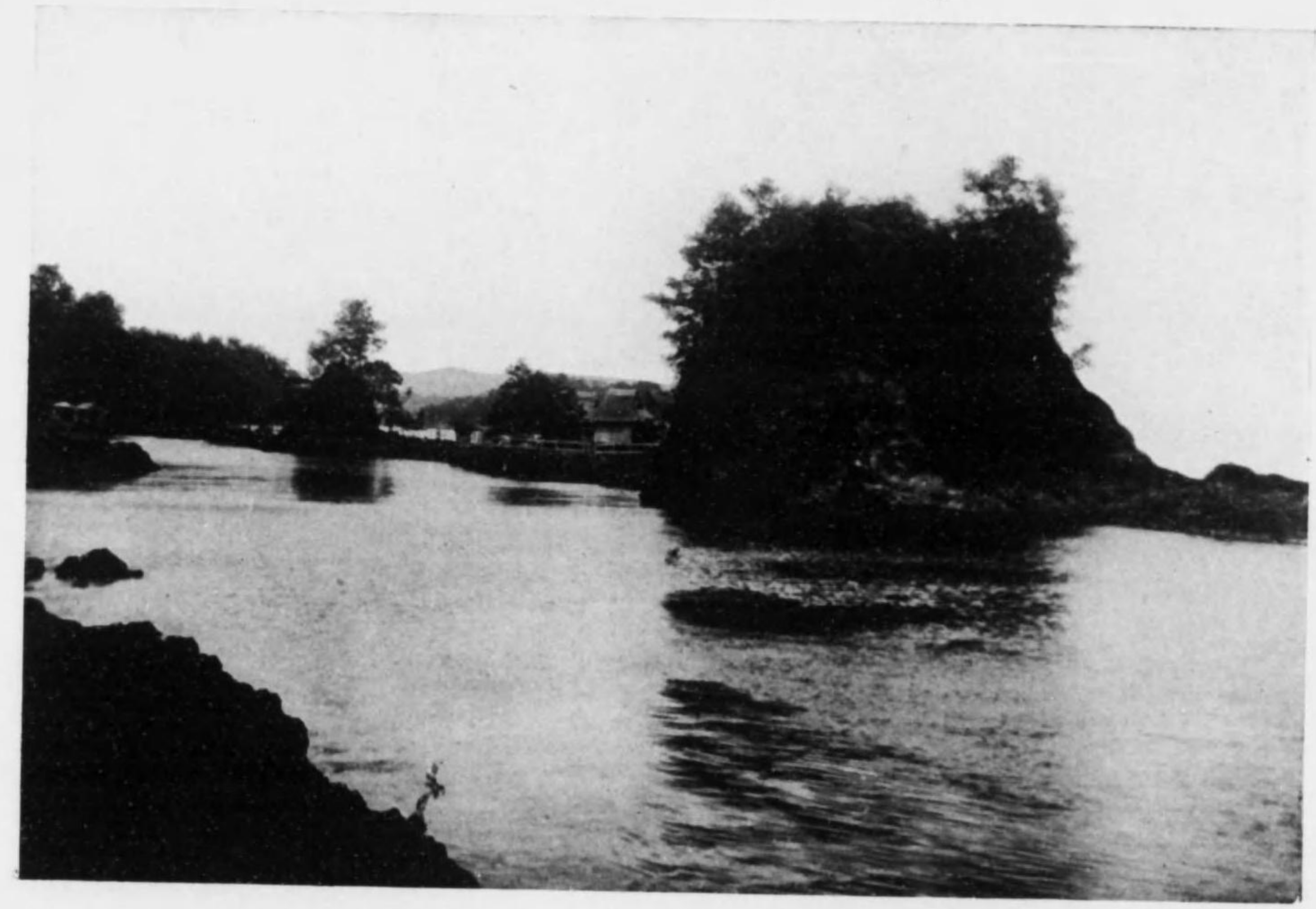
寺 峰 華 蓮 山 叡 比 小



御 所 櫻



矢 島 經 島



【定價三十錢】

昭和九年九月五日印刷

昭和九年九月十日發行

新潟縣佐渡郡金澤村泉

佐渡回遊案内社編輯

新潟縣佐渡郡金澤村泉

印刷兼發行者 山本幸作

新潟縣佐渡郡河原田町

印刷所 佐渡印刷所

電話 呼六十二番

新潟縣佐渡郡小木町本町通幸町

發行所 山本商會

振替東京四七二三二番

終

梁勝
紹寧